

■ 編集後記

ANC 創刊号を編集して

日本心臓核医学会誌は2014年から和文での原著論文を掲載することになりました。会員の皆様の心臓核医学に関する研究を学会誌に掲載することで、多くの研究者と共有できる場ができたと思います。

そして、2015年には日本心臓核医学会の英文誌として Annals of Nuclear Cardiology (ANC) が出版されて国際化の第一歩を踏み出しました。原著論文、レビューや心臓核医学イメージングやエディターへの手紙を掲載する国際誌です。創刊号は薬剤負荷 SPECT による多枝病変患者の位相解析評価についての原著論文、そして半導体による新しい心筋 SPECT 技術の将来、技術的な側面と標準化を含めた MIBG による心臓交感神経機能評価、心臓核医学従事者が知るべき放射線被曝の影響、非心臓手術の術前リスク層別化、心移植後患者の PET/SPECT での管理についてのレビュー記事から始まっています。そのあとにデジタルファントムについての技術的記事、CT 冠動脈造影、心サルコイドーシスに関して特集記事も掲載されています。そして、急性冠症候群における代謝血流ミスマッチの imaging やドイツやカナダでのフェローシッププログラムの紹介、心臓 PET、SPECT の日本での保険の現状について、JSNC の受賞者の記事とその editorial、今年度(7月15-16日)の三重県津市での心臓核医学会総会開催の案内があります。どの記事も読み応えのある内容ばかりであって、盛りだくさんの教育的な雑誌となっています。これらの記事はすべて査読を経て採択となったものが掲載されています。創刊号が素晴らしい内容となったのは、雑誌編集委員長を初めとして、査読をいただいた先生、編集委員の先生の絶え間ないご尽力と、投稿いただいた先生方の研究成果にほかならないと思います。全世界の研究者との交流を通じて Global な視点からの研究や教育が必要ですが、この ANC を発展させて、世界をリードする一流誌に育てていくには、すべての学会員の皆様のご協力なくしてはできません。今後は PubMed の掲載や IF の取得を経て国際誌として発展していきます。心臓核医学の診療に従事する者が必要とするような up-to-date な内容を掲載して、紙面をさらに充実していくこととともに、会員の情報発信をはじめとして、素晴らしい研究の発表の場となってくれることを願っています。心臓核医学に従事する者が、これらの研究成果を共有して、日ごろから疑問に思っていることが ANC を読めば解決できるように、問題を提起し、ディスカッションの場となってくれるような、会員から愛される雑誌に育てていただきたいと思います。

第2巻も、創刊号に続いて素晴らしい雑誌になることを切に願っています。読む人に感銘を与えて、長く読み続けられる論文を書くことは大変なことです。私も学会発展の一助となるように、雑誌の編集や査読などに関して全力を尽くす所存です。心臓核医学の臨床、基礎、心臓核医学技術や画像診断などに関する日ごろのご研究について、ふるってご投稿をお願いいたします。

松尾信郎
金沢大学